

平成 2 7 年度学校経営計画表

【別紙様式 1】

1 学校の現況

学校番号	2 9	学校名	茨城県立海洋高等学校				課程	全日制			学校長名	村田 一弘					
教頭名	田山 祐行										事務（室）長名	長戸 義徳					
教職員数	教諭	3 0	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	3	実習教諭，実習講師，実習助手		1 0	事務職員	5	技術職員等	3 0	計	8 4
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	海洋技術科		4 1	1	3 3	0	3 4	0			1 0 8	1	3				
	海洋食品科		2 2	1 9	1 8	1 7	2 0	1 6			6 0	5 2	3				
	海洋工学科						3 0	5			3 0	5	1				
	海洋産業科		3 4	7	3 4	0					6 8	7	2				
	専攻科遠洋漁業科				3	1					3	1	1				
	専攻科機関科				4	0					4	0	1				

2 目指す学校像

教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより，豊かな人間性と人格の完成を目指し，社会の発展に貢献し得る，心身ともに健全な海洋技術者を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	海のスペシャリストになるという自覚を持ち，自らの興味・関心を高めて積極的に学習活動に励む生徒がいる。	基礎基本の確実な習得を図る一方，即戦力になり得る，より高度な知識・技能を身に付けさせる。
生徒指導	日頃の生徒指導が功を奏し，あいさつ，身だしなみ等の身に着いた生徒が増え，本校生徒に対する評判が良くなっている。	あいさつ，身だしなみの指導を一層徹底すると共に，休まず，時間を守る生徒を育成する。
進路指導	就職する生徒の約 4 割が水産・海洋関係企業への就業である。また，水産・海洋系大学等へ進学する生徒が見られる。	地域の水産・海洋関連企業との連携を一層推進し，定着率を高める一方，進学に向けた指導体制先を整備する。
特別活動	生徒が学校行事や部活動の趣旨を理解して真摯な態度で参加し，自ら楽しむ姿が見られる。	生徒主体の自主的な集団活動をより活性化させる。

4 中期的目標

1	水産業並びに海洋開発に従事するスペシャリストを養成するための教育課程の編成を工夫し、生徒が主体的・意欲的に学習し、社会人として役に立つ人間力を育成する学校をめざす。
2	道徳教育を積極的に取り入れ、生徒の規範意識や社会性の育成を図り、予防的な生徒指導を実現する。
3	大学進学希望や就職希望など、生徒の多様な進路希望に応じ、個人面接や進路ガイダンスなどを行い、きめ細かな進路指導の充実を図る。
4	集団生活を通して、生き生きとした人間関係を築き、体育祭・海洋祭（隔年実施）やクラスマッチなどを生徒自らが計画・実行できるよう学校行事の内容の充実を図る。
5	地域との連携を図り、海洋教育の大切さを積極的にPRする。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
地域に信頼され、愛される、産業の担い手の育成	・休まない、時間を守る生徒の育成。 ・挨拶、身だしなみ指導を徹底及び企業実習やみんプロ、地域イベント等の推進及び企業実習の単位化の検討。 ・ホームページ、学校説明会等の広報活動の充実。
学習活動の充実	・授業時間の確保と授業の改善（目標の明確化、評価の改善、言語活動の充実）。 ・生徒の学習意欲の向上（校内環境の整備、各種検定、体験学習等の学習機会の確保）。 ・進学に向けた指導体制の整備（年次計画、ガイダンス、課外、実力テスト等）。
生徒間トラブルの未然防止	・ホームルームにおけるソーシャルスキルトレーニングの充実。 ・アンガーマネジメント研修の実施。 ・情報モラルの向上及びカウンセリングの充実。 ・特別支援教育委員会、教育相談委員会の活性化。 ・学年会の活性化による生徒情報共有の促進。
学科改編完成年度（平成 28 年度）に向けた校内体制の見直し	・新鹿島丸の運航計画と学校行事のリンク。 ・実習棟の改築を視野に、今後の各科の実験実習の在り方を検討する。